

令和6年度羽咋小学校
学校研究

文部科学省『学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料』> 4. 教育課程の実施と学習評価 > (2)「指導と評価の一体化」の考え方に立った学習評価の改善』より

学習指導要領においては、学習評価の充実について以下のとおり示しています。[脚注1]

児童（生徒）のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科（・科目）等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

各学校における教育活動は、学習指導要領等に従い、児童生徒や地域の実態を踏まえて編成した教育課程の下で作成された各種指導計画に基づく授業（「学習指導」）として展開されます。各学校は、日々の授業の下で児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善等につなげ、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っています。このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの中核的な役割を担っています。

評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという指導と評価の一体化を図る中で、児童生徒一人一人のつまずきや伸びについて指導過程で評価する形成的な評価を行うことが重要です。形成的な評価を生かしながら、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして児童生徒が「おおむね満足できる」状況となるようきめ細かく指導・支援することが求められます。更にそれを超え、児童生徒の興味・関心等に応じて学習が発展するよう指導・支援するに当たっては、その多様な成果を評価することが重要です。[脚注2]

平成28年答申では観点別学習状況の評価において「主体的に学習に取り組む態度」について評価することとされています。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の2つの側面を評価するものであり、[脚注3]自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかといった意思的な側面を評価することが求められています。[脚注4]

この観点は「学びに向かう力、人間性等」の育成に当たって重要であり、また「個別最適な学び」や「協働的な学び」の充実を図る上でも特に重視する必要があります。

さらに、「指導と評価の一体化」の観点から、「主体的に学習に取り組む態度」についての評価を踏まえ、児童生徒が自ら学習の進め方を改善していくことができるよう指導・支援していくことが重要です。

※太字と下線は原文のままです

脚注

[1]小学校学習指導要領（平成29年告示）第1章の第3の2の(1))

[2]教育課程部会における審議のまとめ p.17

[3]児童生徒の学習評価の在り方について（報告）（平成31年1月21日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会） p.11

[4]平成28年答申 p.62

<令和6年度学校研究の概要>

I 昨年度までの学校研究の成果と課題

- ◎授業デザイン（「ドリーム7（導入の工夫）」「スマイル8（確実な見取り）」「てっぺんタイム（複線型の学習活動）」と単元デザイン（「単元デザインシート（てっぺんシート）」）の工夫を通して、目指す資質・能力を効果的に育むことができた。
- ◎本校として長年大切にしている「対話力」や「ICT活用」が確かな力となりつつあり、高い学力を維持している。
- ▲見取りの精度を高める必要がある（公開校内研修時における指導主事からの指導・助言から）
- ▲若手教員が増え、学習評価の仕方を含め、授業力の向上を図る必要がある。

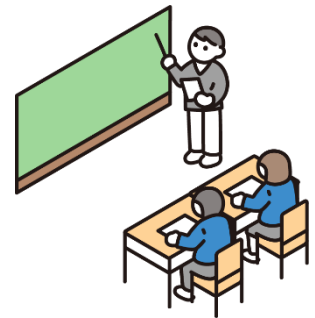
II 研究主題・副題

研究主題	資質・能力を確実に育成するための学習評価
副題	～「指導と評価の一体化」を目指して～

【研究仮説】 児童の学習状況を的確に捉え、「指導と評価の一体化」から指導の改善を図るとともに、児童が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにしたり、学習改善をしたりすることで、資質・能力が確実に育成されるであろう。

III 目指す児童像

- ・互いに高め合ったり、認め合ったりする対話を通して学ぶ姿
- ・ICTを効果的に活用しながら課題解決を図る姿
- ・課題解決に粘り強く取り組みながら、自らの学びを調整する姿



IV 今年度の学校研究のキーワード

指導と評価の一体化 目標準拠評価 観点別学習状況の評価
見取り 指導に生かす評価 形成的評価（学習改善・指導改善）
評定 記録に残す評価 総括的評価（いかすシート）
てっぺんシート+（プラス） 自己調整力 AAR サイクル
見通し 振り返り HAKUISM DiVE
令和の日本型教育 誰一人取り残さない
個別最適な学び 協働的な学び



V 研究の具体

1, 「指導と評価の一体化」をめざす授業・評価計画

【1】単元の目標・評価規準・学習活動等の設定

学年で評価規準や評価方法を検討し、明確化する。本時レベルでは、つまずきの予想をし、即自的な指導・支援も考える。



【2】てっぺんシート+（プラス）の作成（別紙参照）

「てっぺんシート」とは

学習者主体を目指すため、児童が単元全体の見通しをもって取り組めるようにするためのシート。「単元名」「単元の目標（目指す資質・能力）」「単元のゴール」「学習活動」「学習履歴」がある。R5年度は児童の主体性がより発揮されるよう「てっぺんタイム版（複線型）」と「児童と共に作る版」の作成にも取り組んだ。



「自己調整力」は主体的に学習に取り組む態度の育成に欠かせません！

「てっぺんシート+（プラス）」とは

以前までに取り組んでいたてっぺんシートに「評価場面」「評価方法」を追加したもの。評価場面や評価方法を事前に児童に提示することで、評価の妥当性を高める。また、今年度は「自己調整力」育成の視点で活用する。

「評価の方針等の児童生徒との共有について」

○これまで、評価規準や評価方法等の評価の方針等について、必ずしも教師が十分に児童生徒等に伝えていない場合があることが指摘されている。しかしながら、どのような方針によって評価を行うのかを事前に示し、共有しておくことは、評価の妥当性・信頼性を高めるとともに、児童生徒に各教科等において身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージをもたせる観点からも不可欠であるとともに児童生徒に自らの学習の見通しをもたせ自己の学習の調整を図るきっかけとなることも期待される。また、児童生徒に評価の結果をフィードバックする際にも、どのような方針によって評価したのかを改めて共有することも重要である。

○その際、児童生徒の発達段階にも留意した上で、児童生徒用に学習の見通しとして学習の計画や評価の方針を事前に示すことが考えられる。特に小学校低学年の児童に対しては、学習の「めあて」などのわかり易い言葉で伝えたりするなどの工夫が求められる。

（中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）p.14」.2019年）

「学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫の例」

○学校が児童生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果について丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報をより積極的に提供し児童生徒や保護者の理解を図る。

（国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック」.2019年）

できるようにすること

分かること・できること

ア, 感想の言葉をふやす。

ゴール(大きな課題)は、ワクワク感がもてる魅力的なものにしましょう!

【疑問型】「～はどんな〇〇だろう」「なぜ～だろう」

【ミッション型】「～のひみつを探ろう」「～を提案しよう」

【チャレンジ型】「～に挑戦しよう」「～をやってみよう」

【プロセス型】「～を工夫しよう」「～について考えよう」

考えること・表すこと

イ, 女の子の気持ちの変化や情景(天気や風景などの様子)を場面にあわせて具体的に想像する。

「できるようにすること」は、児童の言葉でシンプルな言葉にする。

学習に取り組むたいど

エ, ねばり強く気持ちの変化を追いながら, てっ

はくいっ子がめざす対話力(★)

聞き手の反応やつぶやき, 表情を読み取って話すことができる力

「あたたかな聴き方」と「やさしい話し方」から実態に応じて設定する。★で育成を図る場面を記す。

ゴール

初雪のふる日はどんな物語?

「評価場面」と「評価方法」を入れます。どのステージで, どの観点で, どんな方法で評価するかを事前に伝えます。てっぺんタイムでは, 多様な学習方法での取組が想定できますので, 評価方法をあまり限定しないように留意しましょう!

【ア】【ウ】ノートやロイロに書かれた文章

【エ】ふりかえり

単位時間ごとの学習課題や活動は単元のゴールにつながる「必要感」や「必然性」のあるものにしましょう!

する。(★)

1つのステージを空欄にしておいて, 児童と学習内容を計画することもできます。
(「児童と共に作るてっぺんシート」)

【第2ステージ3時間】読む

②③④ まるごとてっぺんタイム

ひとり学習の読みを深め

・もく読

・意味調べ

・女の子の気

・同じテーマや作者の本を読み, 共通点を探

・特別な言葉(くりかえしなど)を見つけるなど

てっぺんシートは, 学習者主体となるように, 児童に単元のゴールや付けたい力を含めた学習の見通しをもたせます。

今年度は「評価場面」「評価方法」も提示し, 評価の妥当性を高めます。

【第1ステージ1時間】

①先生の音読を聞いて, 全文を読み, 学習の見通しをもつ。

本単元に関わる既習事項を書きます。

・気持ちの変化を読む ・つなげて話す

1単位時間や単元を通して, 複線型の活動(てっぺんタイム)が入っているとGOODです!「選択・判断・決定」は, 学習者主体の授業に欠かせません。数時間単位での「てっぺんタイム」は「まるごとてっぺんタイム」となります。今年度はここで「自己調整力」の育成も意識してください。

【イ】全文シートやロイロなど 【エ】ふりかえり

できる

【3】授業をデザインする

具体的に!

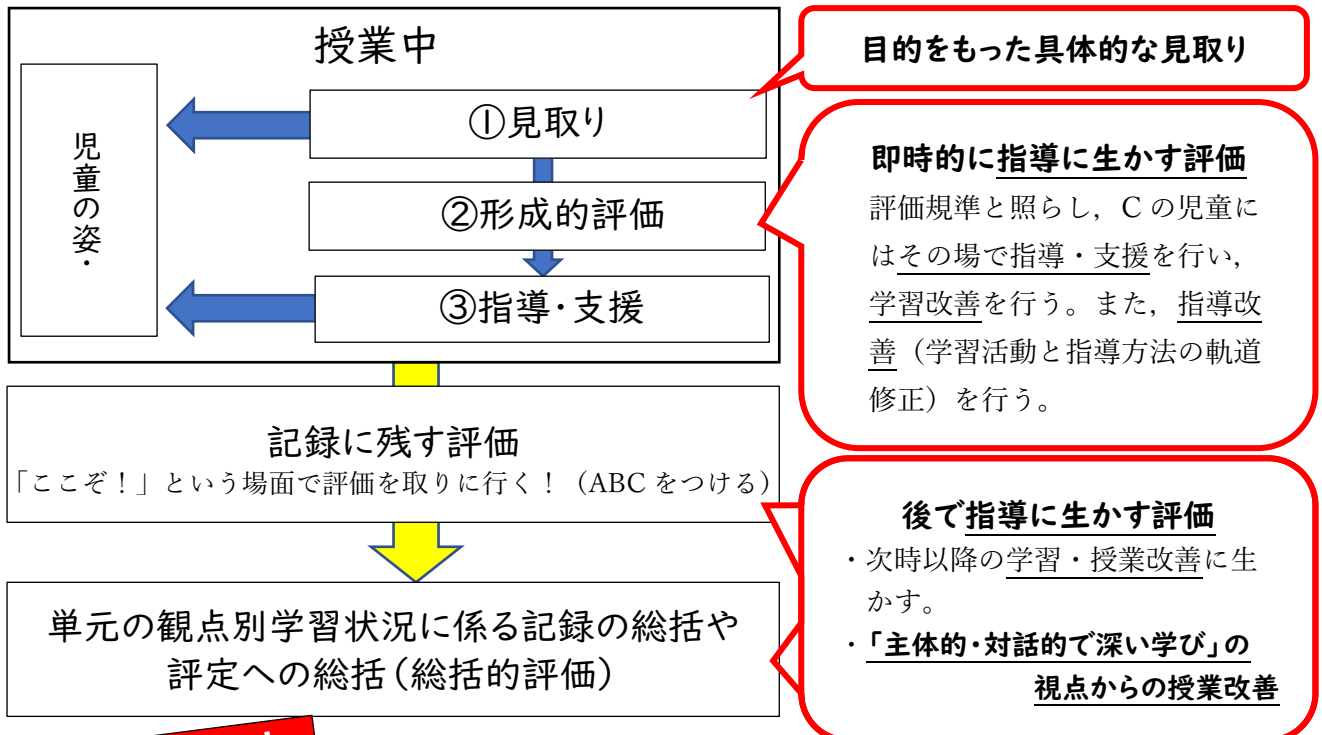
HAKUISM DiVe
との関連

場面	取組内容	見取り	ICT ツール
個別最適な学び	A 見通す 7分 前時を振り返る 課題をつかむ。 見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 探究心が高まったか 前のめりスタートか 課題を理解したか 活動と解決の見通しをもったか 	※1 デジタル教科書 ロイロノート ムーブノート Google ドキュメント・スプレッドシート・スライド・クラスルーム
	A 考える 【個 A パターン】 自力解決を図る。 【個 B パターン】 てっぺんタイム 自ら最適な学習方法・学習形態等を選択・判断・決定した上で、自力解決を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決しているか どこでつまずいているか 全体に共有する価値のある考えはあるか 主体的に選択しているか 理由や効果を考えて選択をしているか 孤立していないか 	
協働的な学び	【協 A パターン】 個別最適な学びを確認する・生かす・深める。	<ul style="list-style-type: none"> 交流が進んでいるか 入れない子はいるか 自分の考えをもって参加しているか 	ロイロノート
	【協 B パターン】 みんなの考えを比較・分類する。 練り上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 適切な思考ツールを使用しているか 羅列のみになっていないか 新たな考えができたか 	
個別最適な学び	R たしかめる 8分 【個 C パターン】 まとめ 自分の考えを見直す・修正する。	<ul style="list-style-type: none"> どう変容したのか なぜ変わっていないのか どうして変わったのか 	※1
	【個 D パターン】 本時を通して身に付けたい力が身に付いたかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決しているか どこでつまずいているのか 既習を活用しているか 	AIドリル (スマイルネクスト・タブドリ)
	【個 E パターン】 振り返り を通して、今後につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 視点に沿っているか 授業(板書)で出た語句を使っているか 今後の見通しをもっているか 	Google ドキュメント・フォーム テキストマイニング

ここがポイント

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還的につなげる(一体的な充実)。
- (2) 「ただ見取る」のではなく、「目的をもって具体的に見取る」。
- (3) AAR サイクル(見通し→活動→振り返り→見通し)で自己調整力を育成する。
- (4) 「C」→「B」の指導・支援を重点に考える。

【4】児童の姿を見取り、評価し、指導に生かす



ここがポイント

「C」のままにしない！誰一人取り残さない！
評価の全ては「指導に生かす」ため！！



指導に生かす・・・児童の学習改善・教師の指導（授業）改善に生かすということ

見取り・・・子供の学びを捉え、解釈する教師の行為のこと。また、形成的評価を通して、指導の改善に機能させる教師の行為。

形成的評価・・・即時的に指導に生かす評価。一つの評価規準に何度も照らし合わせながら児童の姿を捉える場合と、学習場面に応じて、異なる評価規準を使い分けて児童の現状を捉える場合がある。毎授業で実施。対象は全児童でなくてよい。

総括的評価・・・評定（成績）のための評価。記録に残す評価。観点別学習状況の評価を総括的に捉える。内容と時間のまとまりで実施。対象は全児童。成果物等を評価。

ここがポイント

総括的評価（評定のための評価・記録に残す評価）も、「指導に生かす評価」に含まれる評価である。指導に生かすことから離れて、評定のために記録するとなると、学習評価を行うこと自体が目的化してしまう。そのため、総括的評価は「指導と評価の一体化」の観点から、「総括として生かすとともに、指導にも生かす評価」として捉える。

【5】AARサイクルを回して、主体的に学習に取り組む態度の「自己調整勢力」を育成する

「てっぺんシート」や「視点のある振り返り」をもとに、「見通し→活動→振り返り→見通し」のAARサイクルを繰り返し回していく中で、「自己調整力」を育成する。

AAR サイクル

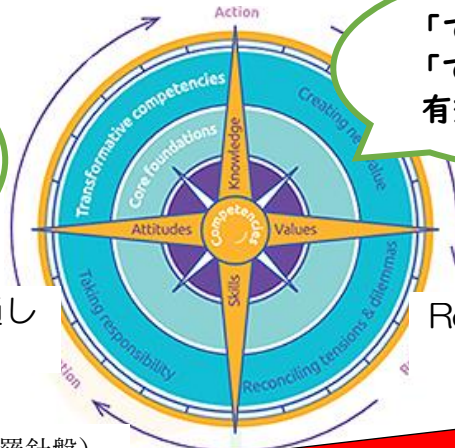


この反復的な学習プロセスが自己調整力育成のカギとなる！

Anticipation 見通し
【てっぺんシート】

Action 行動・経験
【てっぺんタイム】

「てっぺんシート」と「てっぺんタイム」が有効です！



Reflection 振り返り
【新たな振り返り】

OECD ラーニング・コンパス 2030 (学びの羅針盤)

ここがポイント

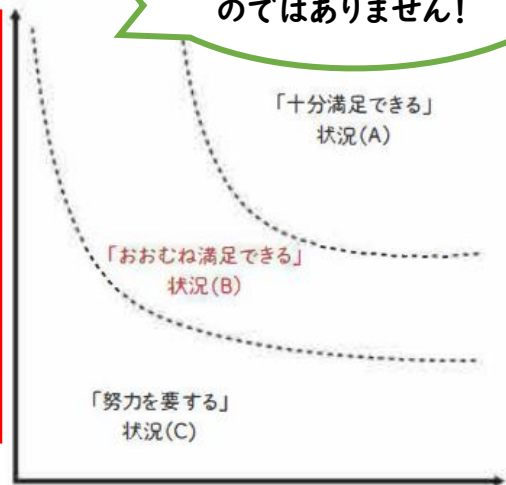
挙手の回数やノートの取り方を評価するのではありません！

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとして粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。

②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

ここでの評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

「自らの学習を調整しようとする側面」とは…

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のことです。評価に当たっては、児童生徒が「自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫」をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

次ページ

(国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」, 2019年)

振り返りの改善・・振り返りで「自己調整力」を見取る視点と発問の工夫

(1) 計画・行動したことを評価する視点

- 「計画通りに進んだ理由とそうならなかった理由は」
- 「どうして課題が解決できた（できなかった）のかな」
- 「てっぺんタイムでだれとどんなものを使って、どんなことをしたのかな」
- 「こだわりをもってがんばったことは」
- 「1～100の計画達成率のうち、今日は何パーセントまで進んだのかな」
- 「今日の自分の学習の取り組み方は何点かな。どうしてその点になったのかな」



(2) 次の学習への見通し・意欲を評価する視点

- 「課題解決に対してまだ不十分なことは」
- 「次にみんなで話し合うべきことは」
- 「さらに調べてみたくなかったことは」
- 「もっとこうしたいと思うことは」
- 「次にどんなことをする必要があるかな」
- 「計画をどんなふうに修正する必要があるかな」

【6】いかすシート（記録に残す評価シート）の作成と記入例

評価の観点		知識・技能		思考・判断・表現			主体的態度	
評価規準（◎重点）		ア		イ（◎）	ウ	エ		総括
時間		2・3・4		2・3・4	5・6・7	2・3・4		
評価方法		ノート		ノート	□イ□	観察・ノート		
評価	児童1	B	B	B	C	B	B	B
					心情の変化 を理解して いない			
	児童2	B	B	A				
				複数から 拠を見て ている。				

国語科の評価シートの例ですが、教科によって他にもいろいろな作成例があります。（国研の参考資料を見てください！）

ここがポイント

(1) 目標に準拠した学習評価

学習指導要領の目標に準拠させて評価規準（B規準）を設定する。

基本的には、「2内容」の指導事項の語尾を変えるのみ。そのため、学習指導要領と評価規準は表裏一体なものとなる。

(2) 目標の実現状況を観点ごとに評価する。目標準拠評価（絶対評価）になります。

「B おおむね満足できる」・・・目標を達成している

「A 十分満足できる」・・・Bから「質的な高まりや深まり」があるもの。そのため、Aの姿は多様に想定される。Bからは青天井！

「C 努力を要する」・・・目標を達成していない。即時的もしくは事後の学習改善と指導改善が必要。

【7】 共通実践の具体・・・全職員で実践！作成したものは職員室掲示！

てっぺんシート+ 国語【初雪のふる日】全7時間

できるようにすること
分かること・できること
ア, 感想の言葉をふやす。

考えること・表すこと
イ, 女の子の気持ちの変化
風景などの様子)に想像する。

「あたかな読み方」と「やさしい話し方」から実態に応じて設定する。★で育成を図る場面を記す。

「できることにする」「できる力」
言葉でシンプルな言葉にする

「評価場面」と「評価方法」を入れます。どのステージで、どの観点で、どんな方法で評価するかを事前に伝えます。

単位時間ごとの学習課題や活動は単元のゴールにつながる「必要感」や「必然性」のあるものに行きましょう!

【第2ステージ3時間】読む
②③④まるごとてっぺんタイム
ひとり学習の
読みを深め
もく読
意味調べ
女の子の気
同じテーマ
特別な言葉(くりかえしなど)を見つけるなど

【第3ステージ3時間】読む
物語か考
交流する。(★)

【ア】【ウ】ロイロノートの文章
【エ】ふりかえり

【第1ステージ1時間】つかむ
①先生の音読を聞いて全文を読み学習の

【ア】全文シート・ロイロ 【エ】ふりかえり

てっぺんシートは、学習者主体となるように、児童に単元のゴールや付けたい力を含めた学習の見直しをもたせます。今年度は「評価場面」「評価方法」も提示し、評価の妥当性を高めます。

1つのステージを空欄にしておいて、児童と学習内容を計画することもできます。(「児童と共につくるてっぺんシート」)

1時間や単元を通して、複線型の活動(てっぺんタイム)が入っているとGOODです!「選択・決定」は、学習者主体の授業に欠かせません。数時間単位での「てっぺんタイム」は「まるごとべんタイム」となります。今年度はここで「自己調整力」の育成も意識してください。

てっぺんシートに「いかすシート」と「いかすカード」をのり付けしてくっつけます。

評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的態度		
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
評価規準(◎重点)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
時間	5・6・7	2・3・4	5・6・7	2・3・4	5・6・7	2・3・4	5・6・7	2・3・4
評価方法	ロイロ	全文シート	ロイロ	全文シート	ロイロ	全文シート	ロイロ	全文シート
1	B	B	C	B	B	C	B	B
2	B	B	C	C	C	B	B	B
3	B	B	B	B	B	B	B	B
4	B	B	B	A	A	A	A	A
5	B	B	B	B	B	B	B	B
6	B	B	C	B	B	B	B	B
7	B	B	B	B	B	B	B	B
8	B	B	B	B	B	B	B	B
9	B	B	B	B	B	B	B	B
10	B	B	B	B	B	B	B	B
11	B	B	B	B	B	B	B	B
12	B	B	B	B	B	B	B	B
13	B	B	B	B	B	B	B	B
14	B	B	B	B	B	B	B	B
15	B	B	B	B	B	B	B	B
16	B	B	B	B	B	B	B	B
17	B	B	B	B	B	B	B	B
18	B	B	B	B	B	B	B	B
19	R	R	C	R	R	C	R	R

評価イ
気持ちが想像しやすい箇所を指し示してあげて、気持ちを書き込むことができるようにする

いかすシート
記録に残す評価です。共通実践後の掲示の際は児童名を伏せるか、裏返しててっぺんシートに貼ります。

いかすカード
Cの子がいた場合、どのような学習改善・指導改善を行うのか(行ったのか)を付箋紙に書き、てっぺんシートに貼ります。



ここがポイント

いかすシート(評価シート)に関して、評価のための記録に労力を割かれて、指導に注力できないことにならないよう評価場面を精選するなどの工夫をしましょう!

2, 対話力の育成に向けて

「あたたかな聴き方」

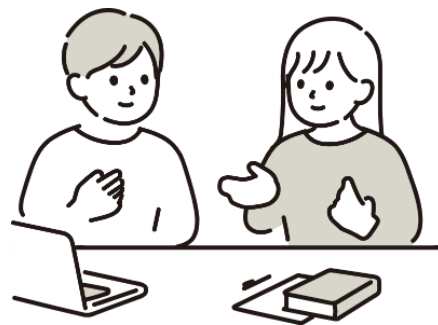
- 話す人の方を向いて聴くことができる。
- 話を最後まで聴くことができる。
- 自分の考えと比べ、同じ、同感、納得などをしながら聴くことができる。
- 自分との考えとの違いを考えて聴くことができる。
- 友だちの話や考えを復唱できるように聴くことができる。
- 自分の考えと比べ、似ている、少し違うなど意識しながら聴くことができる。
- 自分の考えをもって聴くことができる。
- 話を聴いて反応することができる。
- 内容を確認しながら聴くことができる。
- 相手の話を理解しようとして聴くことができる。
- 聴いた内容について、相談することができる。
- 相手がなぜそう思ったのかを、考えながら聴くことができる。
- 考える内容を深めるために相談相手を選択することができる。
- 話す人の立場や想いに寄り添って聴くことができる。
- 課題に沿った話し合いが出来ているかを考えながら聴くことができる。

「てっぺんシート」に重点的に育成したい項目を選んで、単元内に位置付けます。学習内容と児童の実態に応じて設定します。

「てっぺんシート」に記入する際は、語尾を「～する力」に変えてください。クラスの実態に応じて、指導の必要があるものを選びます。

「やさしい話し方」

- 相手の方を向いて話すことができる。
- 相手に聞こえるような声で話すことができる。
- 言いたいことを区切って話すことができる。
- 席が近くの人と相談することができる。
- 自分の立場を明らかにして話すことができる。
- 聞き手の反応を確かめながら話すことができる。
- 自分の意見の根拠や理由を言うことができる。
- 結論から話し、根拠を明らかにして話すことができる。
- 他の人の発言や考えにつなげて自分の話をすることができる。
- 他の人によって、その人の考えを説明して話すことができる。
- 聞き手の反応やつぶやき、表情を読み取って話すことができる。
- 話し合いの論点に沿って自分の出番を考えて話すことができる。
- 課題解決や課題についての方向を考えて話すことができる。
- 資料や例えを使いながら説明することができる。





結局、何をするの？

- ①学習評価について、用語の意味を含めていちから勉強します。
- ②「てっぺんシート+」として「評価場面」と「評価方法」を入れます。
- ③あいまいであった「見取り」を「目的をもって具体的に」見取ります。
- ④「見取り」から C の子の学習改善に向けて、即時的にどんな指導・支援ができるか、また、授業のどんな軌道修正ができるかを具体的に考えます。
- ⑤記録に残す評価シート「いかすシート」をつかって、テストだけの評価ではない、総括的な評価を行います。そして、それも指導に生かします。
- ⑥「AARサイクル」を回して、「自己調整力」を育成します。また、その評価の仕方を研究します。具体的には、「てっぺんシート」で「見通し」をもたせ、選択・決定のある複線型の学習活動「てっぺんタイム」を通して、視点に沿った「振り返り」を書くことによって、自己調整力を育て、それを評価します。
- ⑦羽咋小のブランドである「対話力」を「てっぺんシート」に位置付け、指導します。また、「HAKUISM DiVE」の視点から「ICT 活用力」も鍛えます。
- ⑧共通実践「てっぺんシート祭り」では、全員で「てっぺんシート」「いかすシート」「いかすカード(支援カード)」の作成に取り組み、それを職員室に掲示します。

もちろん、一度にすべてのことはできませんので、1年をかけて計画的に取り組んでいきます。取組内容が多く見えますが、基本的には先生方が毎日取り組んでいることの精度を上げる研究です。「学習評価」の研究は、授業力の向上に直結し、児童の資質・能力の育成に大きく寄与するものです。



VI 研究組織

1 学校研究・GIGA 推進委員会

校長（濱名），教頭（中山），主幹教諭（畑中），研究主任（山岸），研究副主任（八島，梅木）
GIGA（田中，金岡），学力（上野）

VII 計画・要請訪問等に関する共通理解

研究授業の形態	指導・助言者	参加体制			
		事前研	模擬授業	授業参観	整理会
計画訪問（指定以外）	指導主事	各ブロック	なし	各教科	
要請訪問		各ブロック	なし	各ブロック	
計画訪問（指定）		各ブロック	必要に応じて	1 2 3・	
公開校内研修会（指定）		各ブロック	必要に応じて	4 5 6 部会	
スマイルサポート等		応相談			

※原則，1人1回以上の研究授業を行う。ただし，市教研で研究授業を行う場合は，学校研究での研究授業を免除することができる。

- (1) 事前研にかける時間を最大45分とする。そのため，授業者は学習指導案の事前配布を行い，授業者以外は，事前研前に読んでおく。学習指導案の全てについて議論するのではなく，論点を絞って事前研を行うように心がける。

変更！

- (2) 中能登教育事務所への指導案提出の期限は4日前の16:00まで。
- (3) 指導案提出の際には，①授業で使用する資料や問題（授業者準備）と②研究の概要が分かるような簡便な資料（研究主任準備）と③授業整理会での協議の視点及び助言の時間（各部リーダー準備）を添付する。
- (4) 授業整理会の司会は原則，研究推進委員が務める。（司会原稿，進行計画，参観用ロイロノート）
低リーダー（上野），中リーダー（八島），高リーダー（金岡）

Ⅷ 年間計画について（4月26日時点）

月	全体研・校内研	ブロック研	GIGA	予定
4	全体研 （4/15） ・研究内容の説明 校内研 （4/26） ・指導に生かす視点で指導要録を見る		校内研 ・タブドリ、スマドリ、ロイロ	計画・要請訪問日程決定
5	校内研 （5/16）てっぺんシート実践交流会 全体研 （5/17）単元デザイン②，提案授業国語（3年山岸）	中学年（5/9）単元デザイン①		学習アンケート
6	校内研	高学年（6/14）体育（6年中村）		
7	校内研			学習アンケート
8		中学年（8/19）単元デザイン① 国語（4年田中）		計画訪問指導案作成
9	全体研（8/19）単元デザイン②，提案授業国語（4年田中）			（30日運動会）
10	計画訪問（10/11） ・国語5年（金岡） ・算数2年（谷山）			
11	校内研	・特支（11/14）八島 ・低学年（11/28）生活（1年上野） ・初任研（11/8）算数（3年福井）		学習アンケート
12				
1	全体研（3学期の取組確認）			
2	公開校内研修会（未定）			学習アンケート
3	全体研（総括・次年度に向けて）			令和6年度学校研究まとめ

共通実践（祭り）計画

- ① 【てっぺんシート祭】 4/26~5/10 「てっぺんシート+」だけ作成
- ② 【いかすシート祭】 「いかすシート」だけ作成
- ③ 【いかすてっぺんシート祭】 「てっぺんシート+」と「いかすカード」の作成
- ④ 【いかすてっぺんシート本祭】 「てっぺんシート+」と「いかすカード」と「いかすシート」の作成



【引用・参考文献】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 総則編」東洋館出版社，2018 年
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」，2019 年
- ・文部科学省「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」，2019 年
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」，2019 年
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校国語】』東洋館出版社，2020 年
- ・東京都教育委員会「子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む指導と評価の一体化を目指して」，2020 年
- ・中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』，2021 年
- ・石川県教育委員会中能登教育事務所『オンデマンド研修資料「学校研究の Next Phase」』，2024 年

- ・市川伸一編集『速解 新指導要録と「資質・能力」を育む評価』，ぎょうせい，2018 年
- ・高木展郎「評価が変わる，授業を変える」三省堂，2019 年
- ・田村学「学習評価」東洋館出版社，2021 年
- ・菊池英慈，樺山敏郎，折川司，高木展郎「資質・能力を育成する小学校国語科授業づくりと学習評価」明治図書，2021 年
- ・石井英真，鈴木秀幸「ヤマ場をおさえる学習評価 小学校」図書文化社，2021 年
- ・澤井陽介「できる評価・続けられる評価」東洋館出版社，2022 年
- ・樺山敏郎『個別最適な学び・協働的な学びを実現する「学びの文脈」』明治図書，2022 年
- ・木村明憲「自己調整学習～主体的な学習者を育む方法と実践～」，明治図書，2023 年
- ・高木展郎「一人一人の子供に国語の資質・能力育成するための授業改善～学習評価によって，資質・能力の育成を図る～」金沢大学附属特別支援学校教育研究会資料，2024 年